

事案名	横浜市の事案（神奈川県14-111）
分類	生産・保有 発見・被災・掃海等処理 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『相模海軍工廠』1984年〔1〕</li> <li>・Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare, Volume [2]</li> <li>・「毒瓦斯及其ノ充填兵器処理ニ關スル件」昭和20年9月〔3〕</li> <li>・「日本海軍ニ於ケル化兵戦関係概況」(日付なし)〔4〕</li> <li>・「化学兵器調査ノ件報告」昭和20年11月5日〔5〕</li> <li>・Reports of U.S.Naval Technical Mission of Japan, 1945-1946 [6]</li> <li>・Activities of Team No. 53 for the period of 15 Oct 45 to 31 Oct 45. (Target No.337(Nao Shima, hikoku), Technical Intelligence Co.(Seya, Ikekko)) [7]</li> <li>・「旧軍ガス弾等の全国調査結果(案)」〔8〕</li> <li>・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)〔9〕</li> <li>・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について(回答)」平成15年10月23日〔10〕</li> <li>・「昭和48年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査結果について」平成15年8月〔11〕</li> </ul>
資料内容概要	<p>神奈川県横浜市瀬谷区には、第二海軍航空廠瀬谷工場があり、終戦時に旧軍毒ガス弾等を保有していたと記録されている。</p> <p><b>生産・保有情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和20年9月9日現在、横須賀(池子・瀬谷)には、イペリット充填爆弾約10,000発、中口径砲用型薬缶(くしゃみ・催涙)約30,000個、催涙剤52,000kgが存在していた〔1〕。</li> <li>・終戦時に瀬谷には、マスターD 60kg爆弾5,680発が存在していた〔2〕。</li> <li>・昭和20年9月9日現在、横須賀地区(池子・瀬谷)の保有量は、毒瓦斯60kgイペリット爆弾約薬10,000発、中口径砲弾用型薬缶(クシャミ又は・催涙ガス)約30,000個、催涙ガス52tであった〔3〕〔4〕。</li> <li>・終戦時に、神奈川県瀬谷の第2海軍航空廠には6番1号爆弾が8,852発存在していた〔5〕。</li> <li>・相模海軍工廠で生産された60kgマスターDガス爆弾のうち、瀬谷には8,852発存在していた〔6〕。</li> <li>・昭和20年10月に、瀬谷の倉庫には60kgイペリット爆弾約4,000発が存在していた〔7〕。</li> </ul>

・「旧軍ガス弾等の全国調査結果(案)」によれば、終戦時、海軍航空廠瀬谷工場には、イペリット150.5t存在していた〔8〕。

#### 発見・被災・掃海等処理状況

・昭和37年7月に、神奈川県横浜市でイペリットボンベ1個が発見されたと記載されている〔9〕。

#### 現在の状況

・資料により特定された旧相模海軍工廠瀬谷工場跡地は、日米安全保障条約及びそれに基づく地位協定により、米国に提供されており、上瀬谷通信施設として米軍が管理している〔10〕〔11〕。